



2019.2.20 No.29

発行 泊原発の廃炉をめざす会

〒060-0808
札幌市北区北8条西6丁目2-23-806
TEL 011-594-8454
FAX 011-594-8455
URL <http://tomari816.com>
E-mail info@tomari816.com
郵便振替口座 02790-1-100850

第27回 法廷だより

2019年1月22日、第27回口頭弁論期日が札幌地裁で開かれました。

曇天の下 傍聴席は満員

2019年1月22日午後2時00分より札幌地裁で、第27回口頭弁論期日が開かれました。傍聴席は抽選となり、今回も満席となりました。

今回の期日では、原告の意見陳述の後、弁護団から、積丹沖の海底活断層の特定に関する準備書面(35)、原発敷地内に存在するF1断層が活断層であるという主張に関連して、地形発達史的解釈に基づく敷地内の地層の年代の特定について主張する準備書面(36)と、主張に沿う証拠を提出しました。準備書面(36)に関連して、小野有五教授、宮尾正大教授が監修した、地層の堆積、段丘の形成の様子をモデル化したアニメーションの上映を行いました。

被告からは、ディーゼル発電機の保管状況等について原告がした求釈明に対する回答



として準備書面(16)が提出されました。

原告意見陳述

原告の意見陳述は、尾関敏明さんが行いました。原発問題を生命倫理の問題としてとらえるべきだとして、東日本大震災前に電機メーカーに勤

めていた経験を踏まえ、避難経路の確保ができない可能性や被曝を防ぐことができないこと、廃棄物の処理の問題や海底活断層の存在などの理由から再稼働をすべきではないこと、他のエネルギーで代替すべきであることを主張し、廃炉を訴えました。(意見陳述の内容は2ページ。)

弁護団の主張内容

準備書面(35)は、被告が主張する「積丹半島北西沖に仮定する活断層」が原告の主張とは異なる一方、原告の主張する活断層が変動地形学的手法に基づき実際の海底地形に沿って認定されたものであり、詳細は原告準備書面(27)のとおりであると主張しました。

準備書面(36)は、証拠として提出した動画の内容を書面化したものです。敷地内断層(F1断層)に関する争点で、F1断層が入っている地層が33万年前の地層であることと地形発達史との関連で確定し、さらにその上の地層が12・5万年前以降の地層であることが検証できれば、それが「活断層」と認定できる

ことであることを確認しました。その上で、動画に沿って海底が地震により隆起する仕組みや世界的な温暖期・氷河期の繰り返しによる海水面上昇・低下で地層が形成される過程等を説明し、F1断層が少なくとも33万年前の地層の堆積後に活動しており、12・5万年前以降の活動も否定できないことを主張しました。

今後の予定等

裁判所から、次回期日に異動で裁判体の構成が変わるため、中心的な争点である敷地内断層及び積丹半島沖の海底活断層に関する主張の骨子のメモの作成を要請されました。

次回期日は、2019年5月13日(月)午後2時00分からです。(なお、次回回は2019年8月20日(火)午後2時00分と予定されています。)

次回もたくさんの方に傍聴においでいただき、ともに廃炉への意志を表明していきましょ。

(文責) 佐々木泰平

意見陳述

原発は命の
尊厳に関わる
倫理的な問題

原告 尾関 敏明



原告の尾関敏明と申します。

私は、2011年3月まで、東京の電機メーカーに勤務し、原子力発電の「安全神話」にどっぷりと漬かりつつも同僚の技術者たちと共に「安全な機器を製造する」為に努力を惜しまなかったと自負しております。しかし、3月11日

の震度7に達する地震と、巨大津波の到来により、東京電力福島第一原子力発電所は、外部電源が喪失し原子炉の冷却機能を失い、1、3、4号機が次々と水素爆発しました。過酷度レベル7とされた事故により広範な地域が放射性物質により汚染され、多くの住民が長年住み慣れた豊かな先祖伝来の地から避難しなければなりませんでした。人々のコミュニティ

は分断され、経済力のない人々は、避難先で新たな生活を再建、復興する力もないままに寂しい生活を余儀なくされています。酪農の再建の望みを失い「原発がなかったら…」と書き残して自死された方もおられます。事故発生から8年の歳月が流れるようとしています

が、3つの原子炉は未だメルトダウンした燃料棒の取り出しも出来ず、廃炉作業の工程は進んでいません。汚染された地下水は、タンクに溜まり続けています。現場の作業員は毎日、不自由な防護服を着てフィルムバッグをつけ被曝作業を余儀なくされています。原発事故は他のどんな発電所よりも重大な被害をもたらします。そしてそのような事故を完全に防止する事は出来ないのです。政府は、事故発生直後、福島県に緊急事態声

明を発表しました。そして現在もその声明は解除されていません。それにもかかわらず、政府は被災地への帰還政策を進めています。

原発は、政治や経済、技術の問題ではなく、生けるもの全てのいのちの尊厳にかかわる倫理的課題としてとらえる必要があります。私は以下の6つの観点から、泊原発の再稼働に反対いたします。

再稼働に反対する
6つの理由

第1に事故発生時、近隣住民の避難の為に移動手段、経路を確保出来ない可能性があり、特に地震や噴火などの自然災害が先行する場合には、事故が発生した時点で既に避難経路が確保出来ない可能性にあります。

第2に、原発は事故でなくても運転中に排出される微量の放射性物質の拡散により近隣住民の被曝による健康被害が生じ、がん死亡率は他の地域に比べて高くなる事が既に確認されております。

第3に、原発の燃料となるウラン鉱石の採掘から使用済核燃料の処分など全ての過程で被曝があり、電気を使用する人々との間に

差別や分断を生じます。

第4に、原発の使用済核燃料の高レベル放射性廃棄物は10万年の間厳重に管理しなければなりません。最も大きな課題である安全管理を後の世代の人々に委ねざるを得ないのです。

第5に、泊原発は北海道の西端に立地しており、事故が起れば北海道全域が放射能で汚染される可能性があります。日本の食糧庫と言われている北海道は何としても放射能汚染から守らなければなりません。昨年12月にも泊原発の非常電源装置の不具合が見つかりました。この状態で外部電源が遮断される災害や事故が発生したら、福島第一原発と同様の事故が発生した可能性もあるのです。

更に、昨年9月に発生した北海道全域停電に関する第3者検証委員会は泊原発がフル稼働中に一斉停止した場合、再びブラックアウトに至る可能性が高いと指摘しています。

第6に、泊原発の西15kmの沖合には、長さ60〜70kmの活断層があることを北大名誉教授の小野有五さんが指摘しています。これは逆断層といわれ、この地域で直下型地震が起れば、泊原発は福島同様の致命的な災害をもたらす可能

性があります。

以上6点のどれ一つをとっても、私たちの命に関わる重大な問題が生じる泊原発の再稼働はすべきではありません。

クリーンな
電源開発を

最後に、北海道は自然エネルギーの宝庫とも言われています。泊原発を再稼働しなくてもクリーンな電源開発によって、電気は十分賄われるのです。分散型電源の増加や電源ネットワークの見直しは、地域経済の安定と安全で豊かな北海道をもたらすでしょう。同時にこれらは今後不可欠となる廃炉に必要なエネルギーの資源ともなるでしょう。

以上により、北電は泊原発の再稼働ではなく早期に廃炉を決定し、クリーンな再生可能エネルギーを活用した事業経営へと転換すべきです。裁判長の公正な判断をお願い致します。

第27回口頭弁論報告会

晴れてはいても、厳しい冷え込みのなか「さっぽろ雪まつり」の準備が進む大通り公園に35名が集まり横断幕をもって裁判所へ行きました。58名の傍聴席に、最終的に傍聴希望者が61名で抽選となりました。

報告集会には、53名が参加しました。まず、弁護士事務局長の菅沢弁護士から、積丹沖の海底活断層の特定に関する準備書面(35)と原発敷地内に存在するF1断層についての準備書面(36)を提出したとの報告があり、

小野先生が監修した地層の堆積などの形成の様子をアニメ化したDVDを上映し、裁判長からの昨年来の宿題であった泊原発敷地内のF1断層の危険性に関する問題点の説明は出来た。との話がありました。裁判の進捗状況については、次回までに裁判官3名のうち誰かが交代することから、北電に「いつまでも待てない。」と言う今の裁判長のように審理が進むかどうか判らないとの話もありました。

次に、小野先生の解説で次の口頭弁論で提出するDVD第2弾を全員で観ました。「今回のものより論点が絞られていることもあり、説得力があり分

やすかった。」との意見がありました。

意見陳述された尾関さんは、2011年3月まで東京の電機メーカーに勤務し、同僚の技術者と原子力発電の「安全神話」にどっぷりつかっていたと話し、「3・11を経験してもなぜ原発を推進するのか、政治・経済・技術よりも何よりも第1に考えなければいけないのが倫理だ。」と話され、多くの方が賛同していました。



文責：事務局 上出 晶子

最後に、常田代表から3月30日「泊原発を再稼働させない北海道連絡会」主催で俳優中村敦夫さんが年輩いた元原発配管技師を演じる、朗読劇「線量計が鳴る」の紹介がありました。東京電力福島第一原発事故をテーマに、原発の真実、原発推進の愚を鋭く批判する朗読劇を「泊原発? 脱原発? よく分からない」という方にぜひ声をかけて欲しい。と呼びかけました。

泊原発廃炉訴訟 第27回口頭弁論 集会・報告会 参加者アンケートまとめ

回答数 10人 (表記以外、原文のまま)

裁判のご感想やご意見をお聞かせください。

尾関さんの意見陳述はよくわかった。

傍聴人にとってはモニターがほとんど見えず不親切。せっかくの力作が伝わらず残念。DVDによる初の裁判だが、学会の発表ではないので、細かいところは省き、池上彰のような解説が望ましい。意見陳述、平凡であり、もっとインパクトのあるテーマを。

尾関さんの陳述が良く理解できた。参加して良かった。

日本の三権分立はあやしいので、きつと、統一地方選、参議院選が終わるまでは、判決はないのだろうと考えながら聞いていましたが、その上、人事異動で裁判官まで変わるなら、もっと遅いのだろうなあ…と感じました。

DVDのCDがとてもわかりやすく感動しました。学習会などで何回でも観たいので、ぜひ、地方でも入手できるようにお願いします。

裁判長の現在焦点になっている2点のみについてのまとめを作るようにという意見が良くわからない。

なかなか遅々として進みませんねー。

裁判長の言葉で、積極的に裁判進行を考えているように、見受けられた。

敷地断層説明がある程度、素人にも分かり易くなりました。裁判進行の現状説明も分かり易いでした。

充実していました。理解が深まりました。

証拠DVD第2弾は、今回のものより論点が絞られていることもあり、説得力があり分かり易かった。尾関氏の意見陳述、今後の進行見込みなどの状況説明も分かり易かった。質疑も直接関連しない部分も含め、興味深い内容でよかった。

裁判でのビデオは、斜めからしか見えず、音声も聞き取りにくかったので(アングスピーカーをつけるとか、もっと工夫すべきでは?)、あまり詳しく分かりませんが、報告会での小野先生による活断層の位置(どこまで伸びているか)によって、それが何年前までのものであるか、ということが良く分かりました。尾関さんの「倫理の問題……」に大きく共感します。

小野先生の判り易い説明が良かった

泊原発の廃炉をめざす会へのご感想や意見をお聞かせください。

今回やっと参加出来ました。

ドイツの倫理会のメンバーの女性の方の講演会を、是非、通訳付きでお聞かせたいです。

安倍政権・日本原発メーカーの世界からの敗退をも私達は追い風にできればGut →これを正に Global Set. だ!

口頭弁論終了後の報告会のご感想やご意見をお聞かせください。

尾関さんのコメントの方が説得力がありました。

初めて参加したけれど、裁判のこれまでの様子を弁護士さんが説明してもらって理解できた。

尾関さんの弁論に、全く同感です。政治・経済・技術よりも何よりも第1に考えなければいけないのが倫理だと思っています。ドイツの倫理委員会のような会を作ってほしいとずっと願っていました。今の政権が関与しない形で、メンバーを決めることが最大の難関ですが……。

集会(傍聴抽選外れた人を対象)のご感想やご意見をお聞かせください。

傍聴できなかったのは残念だが、証拠DVDを良い条件で見られ、複雑な内容がそれなりに良く理解できてよかった。

アンケートにご協力ありがとうございました。

私たちの弁護士

Vol.2
武部 悟 弁護士

泊原発裁判弁護団の献身的な活動は、活動実費以外は完全無報酬で、泊原発を廃炉にしたいという信念の下、裁判を進めています。こうした弁護団を構成する弁護士の姿を紹介します。

Q 泊原発裁判の代理人になった動機は？

私が弁護士登録をした1983年頃は、雪解けの札幌の空は車粉に覆われており、札幌弁護士会の有志とこの公害をなくすべく活動しておりました。この活動中、北海道大学の原子力工学の教授から「車粉の濃度を計算する式は、原子炉の中性子濃度を計算する式と同じ」と聞いたことがあります。

日が過ぎて、2011年3月11日、東京出張中に東日本大震災に遭遇し、東京難民となりました。同じくして福島第一原子力発電所事故が発生しており、核の灰に覆われた夜の東京をさまよっていたのです。

原子炉から核が漏れたときの空の状態は、漏れた核に着色したならば、あの車粉で真っ黒になった札幌の空と同じ光景だとの教授の話を思い出しました。



武部 悟 弁護士

札幌アライアンス 法律事務所

〒060-0042

札幌市中央区大通西 11 丁目 4 番 22 号
第 2 大通藤井ビル 6 階

TEL 011-281-3888

<http://www.takebeja.com/>

Q 今までに忘れられない裁判はありますか？

原子炉から漏れた核は、無味、無色、質量のみ、最終的には、あの天才アインシュタインの方程式 $E=mc^2$ (c は光の速度、 $3 \times 10^{10} \text{ cm/sec}$) のエネルギーとなつて消滅します。このエネルギーが、接触する生物の細胞を分子レベルで破壊する、これが被爆です。原発のある生活とは、いつ何時このような危険に遭遇するか知れない環境にあることを意味します。

交通事故で死亡した被害者を大きな絶望から救済した小さな正義の事件が思い出されます。

真冬、凍結した国道の緩やかなカーブを曲がりきれなかった大型トラックが対向車線にはみ出し、対向してきた乗用車の青年を正面衝突で即死させました。

Q 趣味を紹介してください

トラック運転手の「私は、蛇行運転をしている相手車両を避けるため、相手車線に進入したら、今度は相手が自車線に戻ってきて衝突した。」との虚偽供述が「審判決で認められ敗訴した青年側の第2審を受任しました。現場確認により、トラック運転者に道路のカーブと路側の除雪壁のため青年運転車の運行軌跡確認不可能、凍結路面の摩擦係数から判断し、青年の蛇行運転はあり得ないことを証明し、逆転しました。理系の知識が役に立って、正義を回復できたことは喜びでした。

もともと漢詩が好きでしたが、一芸を身につけようと詩吟の稽古を始めました。人前で披露できるように稽古に励んでいます。

書評

『原発ゼロ、やればできる』

著：小泉純一郎
出版社：太田出版



小泉純一郎著、と書いてあったので「正直に言うつと」「そんなこと言うたつて、散々、原発を推進してきたくせに」と反射的に反応してしまつた。それでも、「読まないいうちに、読む価値のない本だとして判断できるの」という、妻からのごくまっとうな指摘を受けて、まずは虚心に読んでみることにした。

すると、冒頭に、福島原発事故後、原発について勉強したとの弁があつた。その結果、原発が「安全・低コスト・クリーン」だというのは、すべて嘘だつたとわかつたのだそう。だ。『総理大臣という責任ある立場でありながら、どうしてあんなウソを信じてしまったのか。じつに悔しい。そして、腹立たしい思いでした。』

こう述べてあつた。正直な意見である。もっとも、総理大臣がそんなに簡単に騙されていたのではいけないのではあるけれど、ただ反省しただけではなく、こうして、原発ゼロの急先鋒に立つて動き回っていることは、潔く、そして正しいことだと思つた。読み進めることにした。

なぜ、原発がいけないのかということについては、特別、目新しいことは書かれていない。しかし、何と言つてもさすがに政治家らしく、わかりやすい語り口調で話は進む。おそらく、著者の語りを再構成して、図表を付加して書籍化したのだろうが、なまじつ、書くよりも話す方が説得力があるのだろう。

つまり、原発の危険性についての見事な入門書となつているのである。特筆すべきは、巻末の51ページにもわたる詳細な注である。語句説明、情報の出典など、本書作成に対する本気さが伝わってくる、しっかりとした内容だと思つたら、「注・監修 梶坂英樹（立憲民主党政務調査会）」とあつた。もはや政党の枠を超えた「原発ゼロ」への本気なのであつた。

最後には、総理が原発ゼロにすると号令すれば、すぐにでも舵は切れるのだと結んでいる。実にその通りである。読まないうちに、読む価値のない本だなんて決めつけなくてよかった。

原発ゼロ、やりましよう。

文責 林 心平

第一回大間原発 控訴審報告

大間原発訴訟の会

竹田とし子



2018年12月11日、札幌高等裁判所で竹内純一裁判長、小原一人、吉田光寿裁判官で大間原発の建設、運転の差し止めを求める裁判の控訴審が始まりました。控訴人1036人、代理人は41人です。弁護団席も傍聴席も一杯になりました。国と電源開発側は17人席についていました。

弁護団共同代表の河合弘之弁護士が、「3月19日の判決が10数点の争点をきちんと判断しない肩透かし判決であるから二審に差し戻すか、多くの争点に真摯に向き合い判断すべき」と訴えました。

函館地裁の判決は

3月19日の函館地裁における浅岡千香子裁判長による判決言い渡しは、東京電力社でさえ

止められなかった過酷事故を二度とおこさない為に、建設途中の大間原発をこれから許可を得て建てるなどありえないという、私達心からの訴えを聞き流したとしか思えない、ひどい判決でした。裁判所としての役割を自ら脇において、規制委員会の判断が出ていないし、出る見込みもないから、原告の心配に対して請求は認められないと言ったあの時の裁判長の早口の言い渡しは、私は忘れないと思います。その思いを次のステップへと

いうわけで札幌高裁に來ました。大間から福島から函館からと原告3人の10分間の意見陳述が許され、拍手もおこり、竹内裁判長に注意されました。高裁で何とか原発を止めたい、私達の思いが届いてほしいとそれだけを願っていました。

賢明な選択をする時がきている

高裁では、地元札幌の弁護士の方にも加わって頂き、また冬道の中、皆さんに傍聴にかけつけて頂き、心強く思っています。

私は、1999年2月22日の泊原発差し止めに対する片山裁判長の棄却を申し渡した後の言葉を意見陳述で言わせてもらいました。「自分たちの子供に何を残すのか、多方面から議論を

尽くし英知を集めて賢明な選択をしなければならぬ。」今、その時がきているのです。

私達が訴えた翌年におきた福島原発事故の原因は津波が強調されていますが、明らかに今後長い時間をかけてメルトダウンに向き合わなければなりません。新たに原発を建てる場合ではないことを、電力会社もわかっていないはずはないと思っています。何としても裁判で「賢明な選択」の道を示してほしいのです。

大間原発は函館原発といえる程、しよっぱい川（津軽海峡のこと）の対岸に建てられようとしています。私達は地方自治の県は違っても、被害は一緒です。目の前の危険物に黙っていたら、事故がおきてからでは遅いということを強調しました。

泊原発に反対している皆様にも、これからの大間原発の訴訟のゆくえを見守って応援して下さい。昨年9月6日に北海道電力の苫東厚真火力発電所停止によるブラックアウトも経験した道民は、泊原発が稼働していかなくてほっとした部分があったと思います。災害は忘れた頃にやってくるといういい伝えを、肝に銘じて、大間原発はいらない、泊原発廃炉を実現させましょう。傍聴に来てください。次回控訴審は、5月28日午後1時30分からです。

書評

『放射能測定マップ』

全国市民放射能測定所の総力を結集、活動成果の総決算図説17都県放射能測定マップ+読み解き集」が出版



市民の力でつくった放射能マップ

4,000人以上の市民の協力で、福島第一原発事故で放射性セシウムが広がって沈着したと考えられる17都県で土壌採取・測定を2年半かけて実施し、3,400ヶ所以上の土壌を採取、放射能を測定しました。

食品ごとの汚染とその影響を分析

その成果を中心に、各種の公的測定データと市測定経験を縦横に参照して、県ごとの汚染傾向、時系列、食品汚染への影響などを分析し、また気になる食品ごとの汚染傾向や注意点、各種データを読み取る上での注意すべき事項や変動要因、チェルノブイリなど過去の汚染との比較、ホットスポット、セシウムボール、木灰、指定廃棄物など、まさに行政の知らない情報を、読みやすい形で掲載した本になり、発売3ヶ月で3刷を重ねる好評をいただいています。ぜひ手に取ってご覧ください。

発行：みんなのデータサイト出版 2,500円（税込込み）
（市内大手書店で売り切れの場合もありますので、他の購入方法については「みんなのデータサイト」をご覧ください。）

文責：はかる・さつぽろ運営委員 竹ノ内研司

市民が続けた地道な調査

市民測定所の全国協力組織「みんなのデータサイト」では、これまで測定精度の確保、データのウェブ公開、各種集中測定プロジェクトなどの活動をしてきました。

東日本地域の土壌汚染の現状については、政府が航空機による空間線量率から換算、推定した広域図公開のみで直接の広域的土壌放射能の測定に後ろ向きなことに疑問を持ち、市民ファンディングと民間助成金を得、市民ボランティアの協力により統一的な集中的土壌放射能測定プロジェクトを2014年から実施してきました。

ブラックアウトと

使用済核燃料

核ゴミ担当世話人
マシオン恵美香

昨年11月17日の井戸謙一弁護士講演会前に持たれた三分科会のうち、「ブラックアウトと使用済燃料のリスク」では、「反原発ジャーナリスト会議」の黒田伸代表が停電中の札幌市内を自転車で回った記録、苫東厚真発電所の取材結果、泊村現地が抱える経済問題などについて話され、「道民視察団」の太田規之代表は、北海道原子力防災避難訓練を2012年から継続して参観・取材した経験から原発が稼働していても使用済燃料の存在がある限り起こり得る事態を想定してリアルな避難路確保問題のポイントを示した。筆者（廃炉の会／核ゴミ問題担当世話人）は泊原発の使用済燃料と新燃料の保管状況、北海道条例、北海道沿岸地域の掘削事業と最終処分地選定問題、幌延深地層処分研究施設と三者協定などについて話題を提供した。室蘭地域の参加者からは低レベル放

射性金属加工事業の実態と監視グループ発足の報告、活動への賛同・協力をお願いがあった。宮尾正大室蘭工大名誉教授がブラックアウトまでの経過と原因の解説をされ議論を深めた。

北電の危機管理能力

北海道電力は9月6日のブラックアウト直後の会見で「泊原発への外部電源遮断後、約10秒で設計通りに非常用ディーゼル発電機6台すべてが稼働した」と報告。北海道新聞は朝刊で3分以内に稼働と報じた。折しも9月26日、泊原発訴訟弁護団が被告である北海道電力に対し、ブラックアウト時に泊原発1～3号機の非常用ディーゼル発電機全6機の貯蔵槽にあった燃料貯蔵量や最大保管量などについて裁判所を通じて問い合わせていた。本年1月11日の回答ではストレステスト報告書「使用可能な燃料量および冷却継続期間」の記載とは異なるものの、7日程度としていた備蓄量があったことが判った。ところが、12月5日、原子力規制委員会は「泊原発3号機の非常用ディーゼル発電機1台が2009年の運転開始

から9年間も点検不備による接続不良が見逃され続けた保安規定違反」を指摘した。11月9日に発生したトラブルについて11月22日になって北電ホームページのみで公表されたが報道発表はしなかったことも発覚し、北海道電力の危機管理能力の無さが露呈した。

全ての原子力事業者は公表を義務付けられた

12月26日、北海道電力は「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、泊発電所の廃止措置実施方針を公表した。泊原発敷地内には現在、使用済核燃料981体に加え、昨年搬入された新燃料20本が保管されている。廃炉による原発解体と決まれば途端に原子力燃料は再処理業者に譲渡され、膨大な量の放射性廃棄物が出る。が、受け入れ先が無い場合、どう措置されるのかまでは確約されない。現在も泊原発敷地内活断層の検証のため原子力規制委員会が適合性審査中。原発の稼働を見合わせるほどの環境に使用済核燃料が置かれている。

署名を提出

「あなたはこの避難防災計画を立案する北海道の代表者です。」市川北海道連絡会代表の要請書を読む声が、広い部屋に響き渡る。しかしそこに、高橋知事の姿はない。



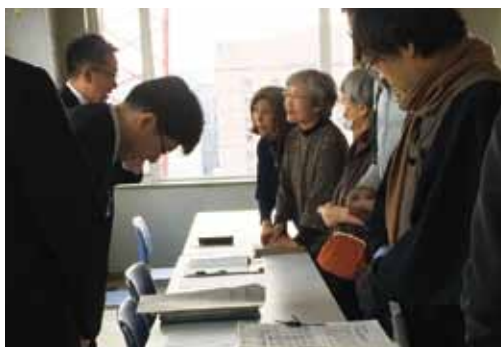
1月30日午後1時半、道庁本館11階共用会議室。「再稼働させない署名」36,812筆を携え、40人が詰めかけた。対応したのは、道庁の環境・エネルギー室ならびに原子力安全対策課の職員5名である。彼らの前の机には、道民の熱い思いがずしりと載っている。市川代表が続ける。「(略)……多くの道民の泊原発を再稼働させないという要望に知事として応え、再稼働は認めないという意思表示をすべきです。」そして「私たちは、あなたが有終の美を飾る知事であ

ることを願っています。」と結び、要請書を職員に手渡した。続いて3団体の代表が意見を述べた。署名を知事の机に必ず置いて下さい。一企業のために、道民の命が犠牲にされてはならない。

9・6地震の後、各地で署名が増えた。皆、厚真が泊だったら：と震えている。食の安全を含め、安心して子育てできる北海道であってほしいなどと発言。再稼働させないよう強く訴えたが、道庁職員の応答は、「知事に報告します」という通り一遍のものだった。

その後、10数名が記者クラブに行き、1年間取り組んできた署名活動の成果や高橋道政の無為無策を伝えた。

結局、高橋知事は長い任期中に一度も、泊原発の危険性とそれを訴える声に真摯に向き合うことはなかった。



32,681筆の署名用紙を届けた

地域連絡会報告

北区の会

今年も厳冬期がやってきました。この時期はいつも泊原発の事故が発生した場合、地域住民の安全が政府や北電のいうように問題なく確保できるのか、懸念が増すばかりですが、今年はその上に、ブラックアウトがもしこの時期に発生したらという新たな心配事が加わり増々寒さが募るような気がします。(現時点では厚真発電所依存体質は改善されていません)

北区の会では昨年9月6日に発生したブラックアウト現象に対し、北電へ要請文を提出すべきと決議し12月5日に「ブラックアウトを契機とした泊原子力発電所の廃炉に関する要請書」を提出しました。ところがあることが翌12月6日の北海道新聞に非常用電源ケーブルの端子へのネジ締めを忘れ、辛うじて接触している状態であった

という記事が掲載され、まさに開いた口が塞がりませんでした。

つまりブラックアウトで原子炉を冷却する外部電源が喪失し、それをバックアップする非常用電源のケーブルの締め忘れネジが「たまたま」端子に接触していたので通電して最悪の事態を免れた、そしてその後の点検時に係員が「たまたま」ケーブルを引っ張って判明したというものです。

北区の会では急遽協議し、再度の要請書「非常用発電機の不具合放置に抗議し、泊原子力発電所の廃炉を要請します」を12月10日に北電へ提出しました。要請書は北区の会ホームページにUPしましたので、下記のURLよりご覧ください。

泊原発の廃炉をめざす札幌北区の会

共同代表 武藤正雄

<https://hairo-kitaku.org/>

十勝連絡会

十勝連絡会は「泊原発を再稼働させない道民署名」を2000筆(会員170名*10筆*10)を目標に取り組みました。4月7日から開始し、ほぼ月2回の街頭署名行動(帯広駅南側が中心)や各種集会での取り組み、会員が友人・知人に依頼して集めるなどの方法で1362筆集約することが出来ました。やはり、街頭署名行動が大きな力になっていると思います。

12月9日には、例年行っている望年会を帯広市内のコミセンで行いました。遠く足寄からも会員が駆けつけ、総勢14名の参加。持ち込みの料理や調理室で作った鍋ものや「ボウステイック、アヒージョ、餃子などの料理を腹一杯食べ、1月の口頭弁論で意見陳述する尾関さんの話を聞いたり、日頃思っていることを交流しました。歌集も用



代表 中村廣治

意して懐かしいフォークソングなどを歌い、1年間を振り返って活動の鋭気を養いました。今後も、楽しいことしながら、活動に取り組むつもりです。(写真)

3月9日には、原発をなくす十勝連絡会と

当会の共催で「さよなら原発十勝集会」(帯広駅南)が、3月13日には会員からの要望で「泊原発の避難計画についての学習会」を開く予定です。

そらちとチュプの会共催のイベント

「そらち」の活動に下記のような方針があります。

『地域に根ざした小規模な活動を継続する。廃炉を目指すことは勿論だが、地域の生活を見直す体験や学習を行い、自然再生エネルギーへの活用等にも目を向けるとりくみを目指す。』

今回はそらちの地域に根ざした活動の一端を紹介いたします。そらちの会員と地域の住民は、7年前に「自然エネルギーを考える会」を立ち上げ、4年前から『みどりのおやゆび・チュプ』として活動を継続しています。北海道の豊かな自然と共存する方策を探っていた矢先、会員の中に上幌の丘と宮村に土地を持っている方がいました。その土地は農家が手放した土地でした。その土地で自然の保全活動を行い、そらちとチュプの共催で4回のイベントを開催すること

が出来ました。

今年は、太陽光で工コッキング・燻製作り・山ヨガ・クサギ染めの展示・食品に含まれる放射能等・蔵の放射能の測定結果の展示・三栗祐己さんのお話・中村さんの伴奏と歌声・斉藤かすみさんのオカリナの演奏を原生林の中で満喫しました。このイベントには会員以外の方や未来を担う子どもたちも参加しました。自然の中で活動する機会が少なくつづいている昨今ですが、このような活動を継続して多くの人たちに自然と触れ合う機会を増やしていけたらと思っています。

泊原発廃炉の会・そらち 幹事長 中川洋子



釧路地域連絡準備会



11月25日に準備会も協力した香山リカ氏釧路講演会では500名以上も来場者がありました。来る3月17日にはメモリアル集会として、廃炉の会原告でもある久世薫嗣さん(豊富町の酪農家・核廃棄物設誘致に反対する道北連絡協議会代表)の講演会を再び計画しました。(昨年、悪天候のため中止となったため)

毎週金曜日夜刻、釧路駅前での脱原発アピールを継続しつつ、釧路地域連絡準備会を数名の世話人・呼びかけ人で持ちました。今年度内に東北北海道エリアに呼びかけられるご案内を出したい見通しです。今後は時折、裁判の進行状況などをお知らせする場を持ち、脱原発・原子力関連の学習会、情報交換などをしていきたいと考えています。釧路地域の原告の皆さんは是非、ご参加ください！

釧路準備会 マシオン恵美香

おしらせ

** 事務局ボランティア募集 **

事務局ボランティアさんを募集しています。講演会やイベントのお手伝いなど、ご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

住所変更のお願い

住所が違いため、ニュースを送っても戻ってきています。住所が変わる予定のある方は、お知らせください。

月・水・金10:00~13:00まで TEL 011-594-8454 FAX 011-594-8455

廃炉の会 チカホイベント



12月5日から7日まで、札幌市で活動するNPOなどが集まって、日頃の活動を紹介するイベントが地下歩行空間（チカホ）で開催されました。札幌市民活動センター主催で、私たち「廃炉の会」は、初日の5日に活動の紹介と賛同人募集、コーヒーなどの物販をしました。

会場は札幌駅に向かう北3条交差点広場で、札幌駅に向かつて歩く方からちよつと見える場所だったため、多くの方が興味深く、立ち寄ってくださいました。会議用机1台分のスペースでしたが、

まちなか×NPO ちよつと市

広場全体では、ポスターセッションや体験コーナー、ステージ上では各NPOのパフォーマンスがあり、「廃炉の会」にも大勢の方が足を止めてくださいました。

ちよつと、北海道を襲ったブラックアウトがあった後でもあり、「廃炉の会」には普段は通り過ぎるけど、ちよつと興味があったと思われの方が立ち寄ってください、物販担当の大場さんのアプローチも絶妙で、活動の資金にもなることを知ると、コーヒーが飛びように売れました。

5日は31団体が参加し、全体では85団体が参加するNPOのお祭りとなりました。チカホでのイベントは、歩行空間を歩いている一般の方にアピールできる機会であり、とにかく大勢の方が寄ってくださるので、出来る限りチカホでのイベントは継続していきたいと思っています。

今回のちよつと市は、毎年行っているイベントで今回は初参加でしたが、参加した事務局員も来年の参加はもちろん、ステージ上で「廃炉の会」のアピールをしよう！と言う積極的な声もあり、充実したイベントとなりました。

お知らせ

第28回 口頭弁論

2019年5月13日（月）14:00～
札幌地裁（札幌市中央区大通西11丁目）

- 集合 13:10 大通公園西11丁目
- 集会 13:50～ 傍聴抽選に外れた人対象
- 報告会 口頭弁論終了後～16:00
- 会場 北海道高等学校教職員センター
（札幌市中央区大通西12丁目）

編集ボランティア募集

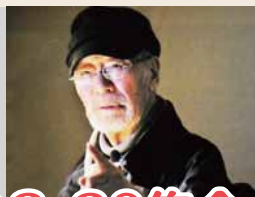
廃炉の会では、HAIROニュースの編集スタッフを募集しています。ニュースの企画、原稿書き、校正、取材など以前、編集の経験があるかたやニュースの編集に興味ある方は、ぜひ事務所までご連絡ください。

TEL 011-594-8454

中村敦夫 札幌公演

朗読劇 線量計が鳴る
元原発技師のモノローグ

チケット
発売中



泊原発を再稼働させない3・30集会 —福島を忘れない・原発を動かさない—

右と言われたら右を向き、左と言われれば左を向き、死ねと言われれば死ぬ。
俺はもう、そんな日本人にはなりたくねえんだ。
原発の町で生れ育ち、原発で働き、原発事故ですべてを奪われた。
これは天命か、それとも陰謀か？老人は、謎解きの旅に出る。

俳優で元参議院議員の中村敦夫さんが、東京電力福島第一原発事故をテーマにした朗読劇「線量計が鳴る」—元原発技師のモノローグ—を上演します。
中村さんが脚本・主演するひとり朗読劇で、老いた元原発技師が、原発が作られた経緯や仕組み、事故の実態や不条理を訴えます。みなさま、是非ご参加ください

日時 2019年3月30日（土） 15:00～（開場14:30）

場所 札幌エルプラザ3F 大ホール（札幌市北区北8条西3丁目）

チケット前売り1,800円・当日2,000円（前売りが発売の場合、当日券はありません）
チケット取扱：大丸プレイガイド、道新プレイガイド

主催 泊原発を再稼働させない北海道連絡会

チケットご希望の方は廃炉の会事務所まで